

令和八年度

滝川第二高等学校 入学考査 問題

(二次)

国語

(五十分・百点)

注意事項

- 1 問題は1ページから19ページまであります。
- 2 解答は、すべて解答用紙の枠内に記入しなさい。
- 3 「開始」の合図があるまで問題用紙は開いてはいけません。
- 4 受験番号を解答用紙と問題用紙に正しく記入しなさい。
- 5 「終了」の合図で筆記用具を置き、監督の先生の指示に従いなさい。

受験番号

受験番号				

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(指定された字数に

は、句読点その他の符号も一字として含みます)

明治維新以後と戦後の日本人は、客観的には着物より不格好であつても、主観的には洋服の方が「かっこいい」と思い込んで着るようになりました。これが①※グローバリゼーションの一つの側面です。つまり、自国と外国のあいだに、価値の高低をつけたのです。欧米文化の価値は高く、日本文化の価値は低い、ということにしたのです。なぜかという、技術や政治のみならず生活まですべて欧米化すれば「世界に認められる」と考えたからです。a レイセイに考えれば、衣食住まで変える必要はありません。より良いと思える技術や政治手法は導入し、そう思えないものは導入せず、生活のしかたはそのまま良いわけです。しかし明治維新と戦後に起こったことは、都市の設計、建築物、エネルギー政策、衣類、食べ物に至るまで欧米化することでした。こうしないと世界の中で生きて行かないからではなく、欧米社会の生活を「豊かさ」だと思ひ込み、そこに「幸せがあるはずだ」と考え、それを目標にしてしまったのです。

これはまた、②日本の側だけの事情ではありません。アメリカは小麦やミルクや肉や自動車や洋服生地やナイロンを売る市場を探していました。b 占領下に置いた日本は、ものを売る先として、もつ

とも都合がよかつたのです。そのようなアメリカの事情は現在でも同じです。今は、日本に米や保険や高度c イリヨウを売ろうとしています。

グローバリゼーションには長所と欠点があります。大量に製品を作つたり、広い土地で農業ができる国が、生産力の劣る国に大量に安く商品売ることで、ものや文化の③が失われ、国の④が無くなります。また、軍事力の弱い国が強い国のあらゆる面を模倣し依存することで地球上の文化が③を失います。それらの点が短所です。明治以降の日本はその短所の方を選んでしまったわけです。戦後も、二〇一一年には貿易のa さらなる自由化によって、また同じ選択をしました。

もう一度、江戸時代に戻ってみましょう。※羽織や着物や帯の事例で分かつてきたと思いますが、戦国時代から江戸時代の日本人は、ポルトガル船や※オランダ東インド会社船が運んできた衣類を、全面的に受け容れたわけではありませんでした。彼らが導入したのは「生地」でした。そこには暖かい素材、美しい色彩、面白い文様やデザインがあり、その面白さ美しさを採用しました。ついでにズボンもシャツも取り入れてみましたが、シャツはイあまり拡がらずズボンは部分的に採用されました。食べ物では、金平糖やカステラやどら焼きは江戸時代に入ると、ウとても一般的なお菓子になりました。

それだけではありません。江戸時代では男女とも「^⑤たばこ入れ」というものを持つのがお洒落しゃれでしたが、その素材には、オランダ東インド会社が持ってきたヨーロッパの[※]羅紗らしゃや[※]金唐革きんからかわ（牛の皮革に金銀や色で文様をつけたもの）、インドネシアや中国の木綿、[※]インド更紗さらざなどを使用しました。羅紗の生地しじに秋の虫を刺繡ししゅうし、珊瑚さんごで作った柿の形の金具をつけ、月と[※]竜田川たつたがわをデザインした鎖くさりで飾ったたばこ入れがあります。これは、素材は輸入品の羅紗ですが、日本の秋を形にして取り合わせたのです。金唐革で作ったたばこ入れには、ふぐの形の金具をつけ、奈良の興福寺こうふくじの古瓦ふるがわをかたどった根付けをあしらいました。これは「ふぐ」と「福」のだけじゃありません。かわいらしいふぐの金具をつまんで開けると、その裏にはカレイと梅の文様の金具がついています。ふぐは冬の季語（俳句で使う季節の記号）、カレイと梅は春の季語ですので、たばこ入れを開けると春になるのです。金唐革はヨーロッパのもですが、そのデザインと組み合わせは日本のものです。

江戸時代は中国、朝鮮りゆうきょう、琉球りゅうきゅう、インド、インドネシア、ヴェトナム、カンボジア、南ヨーロッパ、北ヨーロッパなど、それぞれ異なる文化の影響を受けながらも、どこに偏るでもなく、必要なものをもらいながら、日本文化を作り上げていきました。これを「内発的発展」と言います。「内発的発展」こそが、グローバリゼーションがもたらす長所です。

内発的発展とは、どこからも影響を受けずに閉じた空間で独自の発展を遂げることはありません。あらゆる情報を獲得し、その場所の気候や自然環境や歴史や職業や今後の仕事の可能性に沿いながら、人々がうまく生活していけるように取捨選択して経済システムを作り上げてゆくことです。

自然環境を無視して技術だけを導入すると、とんでもないことが起こってきます。

I 森林に恵まれているのに木材を外国から輸入して森林崩壊になるとか、雪で倒れることがわかっていて高山に杉を植えるとか、^d湿度しつどが高いのにそれを吸収できない建築材料を使うとか、地震が多い国土に原子力発電所をたくさん作るなどは、実際に日本がやってきたことです。自然環境は人の力で変えられないので、それを無視すると大きな災害が起きたり、膨大なコストがかかったりするのは、そこから考えると、^⑥内発的発展に知恵を絞るのは、とても重要なことなのです。

ここまで、ヨーロッパ諸国やアジア諸国の影響を受けた着物について語ってきましたが、では影響を受けなかったものはないのかというところ、それもありません。「風景の着物」です。江戸時代になると、刺繍や染めの技法が何通りも出てきて、どんなことでも可能になりました。

II 江戸時代の着物は、^工広げると^一一枚の絵画のようです。大きくうねる川の流れの周囲に^オびっしりと^ハ萩の花が咲く着物、全体の半分を被う巨大な流れと、それに沿って咲く

かきつばたの着物、山中の流れに何羽もの鴛鴦おしどりが浮かび、その上に山桜が開き散り、そのあいだを鳥が舞っている着物、夜の山に梅が匂いその木のもとに春の七草が見える着物、裾に松原が広がり、その向こうに帆船が浮かび、その上空を着物いっぱい様々な格好で鶴が飛ぶ着物（※ 図1-6）、竹林の中に迷い込んだような着物、夜の京都嵐山あらしやまから桂川かつらがわと渡月橋とげつきやうを見渡す着物、屋内の御簾みすを少し上げてそこから覗いた庭のぞの草花と、そこに蝶ちようの遊ぶ風景の着物、※ 吉原よしの通りと茶屋と歩く人々を描いた着物、表は地味な無地で、裏に見事な青海波せいがいとそこに浮かぶ水鳥を刺繍した着物など、枚挙のいとまがありません。このような風景画でもある衣類は、日本の江戸時代に出現したのです。

【田中優子『グローバリゼーションの中の江戸』より】

※ グローバリゼーション：経済活動の枠組みが世界規模に広がっていくこと。国際化。

※ 羽織や着物や帯の事例：本文よりも前で説明している。

※ オランダ東インド会社：インド、東南アジアの貿易を目的としたオランダの株式会社。

※ 羅紗：厚手の毛織物。

※ インド更紗：色彩豊かで文様の入った木綿の布。

※ 竜田川：奈良県北西部を流れる川。

※ 図1-6…出典書籍に掲載されていた資料。本文では省略。

※ 吉原：東京の地名。

※ 青海波：うねる海の波をかたどった文様。

問一——線部 a ~ d について、漢字はその読み方を平仮名で書き、カタカナは漢字に直しなさい。（漢字は楷書で正しく書くこと）

問二 ――線部①について、学級で話し合いをしました。次の話し合いの様子、 に当てはまることばを、 は八字、 は十四字で、それぞれ本文中から抜き出して書きなさい。 は三十三字で本文中から探し、初めの五字を抜き出して書きなさい。(二つの には、同じことばが当てはまります。)

坂本 さかもと グローバリゼーションの一つの側面ってどういうことなんだろう。

桜井 さくらい それは、明治維新以後と戦後における日本で目立つように、自国と外国のあいだでどちらの文化が価値が高いのかを意識するようになることだと思う。

石川 いしかわ そうだね。その時期の日本は ということが重要だったから、日本文化より欧米文化に価値があると考えて欧米化を進めたんだね。

桜井 確かに外国との政治的なやりとりや貿易の面から考えると、欧米化は必要だったと思う。でも、筆者も指摘しているように ことだけが理由なら、 はずだよ。それなのに、なぜすべての面で欧米化を進めたんだろう。

石川 アメリカの事情もあるけど、当時の日本で とする価値観が広がったことが影響しているのではないかな。

このように、すべての面で外国文化に価値があると考えることがグローバリゼーションの一つの側面だと筆者は言っているのだと思う。

問三 ――線②とありますが、アメリカの側の事情をふまえると、戦後の日本とアメリカはどのような関係だったといえますか。それを説明した次の文の に当てはまることばを四十三字で本文中から探し、初めの五字を抜き出して書きなさい。

関係。

問四 空欄 ・ に当てはまることばとして適切なものを、次のア～カからそれぞれ一つずつ選び、その記号を書きなさい。(二つの には、同じことばが当てはまります。また、同じ記号は二度使えません)

- | | | |
|-------|-------|-------|
| ア 自立性 | イ 積極性 | ウ 可能性 |
| エ 客観性 | オ 多様性 | カ 共時性 |

問五 ――線部ア～オの中で、品詞が異なるもの一つを選び、その記号を書きなさい。また、その異なるものの品詞名を漢字で書きなさい。

問六 ――線部⑤について、「たばこ入れ」は本文ではどのようなものとして取り上げられていますか。最も適切なものを、次のア～オから一つ選び、その記号を書きなさい。

- ア 異なる文化のすぐれた素材を日本の技術で加工したため、質はよいがデザインは不均衡になっており、グローバリゼーションの長所と難しさがわかるものとして取り上げている。
- イ 異なる文化がもたらしたすぐれた素材や美しいデザインを積極的に採用しており、江戸時代にすでにグローバリゼーションが進んでいたことを示すものとして取り上げている。
- ウ 異なる文化の美や趣を導入しつつ機能面は日本文化に合うようにこだわっており、グローバリゼーションが適切に実現されていたことを示すものとして取り上げている。
- エ 異なる文化の技術とデザインによって日本の様式の用具を完成させており、全面的に異文化を取り入れたグローバリゼーションがあったことを示すものとして取り上げている。
- オ 異なる文化の実用的で美しい素材を活用して日本固有の美を表現したデザインを完成させており、江戸時代のグローバリゼーションの長所を示すものとして取り上げている。

問七 空欄 I・II に当てはまることばを、次のア～カ

からそれぞれ一つずつ選び、その記号を書きなさい。(同じ記号は二度使えません)

- ア なぜなら イ それでは ウ ところが
エ たとえば オ あるいは カ ですから

問八 ———線部⑥について、この筆者の考えを具体的に説明したも

のとして最も適切なものを、次のア～オから一つ選び、その記号を書きなさい。

- ア 人々が将来も安定して生活できるように、異文化から導入したものが日本の環境や社会に適合しない場合はまったく工夫せず排除し、自国の文化だけで再構築する判断が必要である。
- イ 将来の社会に不利益を与えないために、自国の文化を維持しようとするのではなく、異文化からあらゆる技術を前向きに取り入れて社会を発展させる必要がある。
- ウ 自然環境を将来も維持できるように、異文化の技術や情報ではなく、自国の気候風土に沿って国内で生み出された、技術や情報によってシステムを構築する必要がある。
- エ 将来になって大きな損害が生じないように、自国に異文化を導入するときは、適切に改良したり自国の自然環境や社会のあり方にふさわしいものを見極めたりする必要がある。
- オ 固有の自然環境を守るために、異文化にできるだけ頼らないようにして、気候風土や社会生活のあり方の基盤となっている自国の文化を維持して発展させる必要がある。

問九 この文章で書かれている内容に当てはまることとして適切な

ものを、次のア～カから二つ選び、その記号を書きなさい。

ア 明治以後と戦後の日本が、閉鎖的であった江戸時代よりもあらゆる異文化の影響を受けていることは、グローバリゼーションの恩恵を受けた点として評価できる。

イ 明治以後と戦後の日本よりも、異なる文化に依存しすぎない江戸時代の方がグローバリゼーションのあり方としてはすぐれている。

ウ 明治以降の日本は、グローバリゼーションの欠点ばかりを採用していたが、二〇〇〇年代は貿易の制限を少なくすることで改善を試みている。

エ 戦国時代から江戸時代の衣類は、ポルトガルやオランダの影響を大きく受けていたが、その他の面では欧米化が庶民の生活に浸透することはなかった。

オ 自然環境を守る努力を重ねて国内資源が十分に確保されたために、外国のものを取り入れる必要がなくなったことが、現代日本のグローバリゼーションに失敗した要因の一つである。

カ 日本の着物はヨーロッパやアジアに影響を受けたものもあるが、風景画でもあった江戸時代の着物は、発展した技法によって異文化の影響を受けずに完成したものである。

二

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(指定された字数には、句読点その他の符号も一字として含みます)

仕事を失った桜野優彩のもとに、旅行代理店から「アート旅」の招待状が届いた。優彩は、ツアーガイド・志比桐子の案内で、瀬戸内海の※直島を訪れて美術館を巡り、一泊二日の旅を終えようとしている。

フェリーの客席に入って、二人掛けの席に並んで腰を下ろす。

空腹を感じていると、桐子が紙袋を差し出した。

「これ、よかったら、食べませんか？」

入っていたのは、ラップに a ツツまれた海苔付きの大きいおにぎりだった。

「えっ、いいんですか」

「私が泊まった民宿の方に、お願いしてつくってもらったんです。

午前中はめいっばいアートを見学するだろうから、あると便利かなと思って」

「ありがとうございます、なにからなにまで」

頭を下げると、「とんでもない。これが仕事ですから」と桐子はほほ笑んだ。

その笑顔を見つめながら、はじめて桐子に空港で会ったときに、

① まぶしい、という印象を抱いたことが頭をよぎった。

「すごくいい企画ですね、アートの旅って」

「本当ですか？」

桐子はぱっと表情を明るくした。

「もともと桐子さんが企画したんですか？」

一泊二日であちこちを巡るうちに、「志比さん」ではなく下の名前で、彼女を呼ぶようになっていた。

「はい。アートの旅を企画したくて、今の旅行代理店に転職しました。長いあいだやりたかったことだったから、そう言ってもらえて本当に嬉しいです。もし改善できそうな点があれば、率直に教えてください」

ああ、なるほど――。

優彩はやっと腑に落ちた。桐子という女性から発せられる光は、決して育ちのよさとか外見とか、そういった要素のせいではなく、もっと彼女を作りだす根本的なもの、いわば自己肯定感のようなものに由来するのかもしれない。自信という c カンタンなものではなく、彼女自身を支える芯から発せられる光に、優彩は反応してしまっただけだ。最近の自分にもっとも欠けていたものだから。

そういう光を、自分も手に入れることができるだろうか。

「改善点なんて、とくに思い浮かばないです。むしろ、楽しすぎるくらいでした。今まで言えなかったんですが、私、無職なんです。

東京に帰ったら、求職活動が待ってます。気が重いけど、この企画のおかげで頑張れそうです。ありがとうございます

つい弱音を漏らしてしまったが、桐子は驚く素振りも見せず、「そうでしたか」とだけ相槌を打った。

「すみません、今の話は弱音を吐いたわけじゃないんです。私、昨日 ※モネの《睡蓮》の前で強くなるって誓ったんです。自分で自分に呪いをかけたり、暗い方向に進んでいくのは、もうやめることにします」

空気が深刻にならないように、優彩はほほ笑んだ。

「桜野さんは、もう強いと思います」

「そうですか？」

「港やフェリーでいろいろと話をしたときも思ったんですけど、現実をちゃんと見ている人だから。私は桜野さんの近況をよく知らないけれど、全部が桜野さんの肥やしというか、強さにつながっているんだろうなって、接しているだけで自然と伝わりますよ」

優彩は思わず、涙腺が熱くなった。

②「ありがとうございます。あ、これ、美味しそうですね」

誤魔化すようにラップをほどいて、おにぎりを一口頬張る。なかに鮭が入っていて、海苔の風味とよく合っていた。瀬戸内海でつくられた海苔かもしれない。そういういえば、今朝ホテルでとった朝食も、地元の特産品がたくさん含まれていた。

二人はしばらく、おにぎりを食べながら曇り空の海を眺めた。やがて西の空が明るくなったかと思うと、分厚い雲の切れ間から光線が幾筋か降りてきた。とたんに小さな島の点在する海面と、そのうえに漂う霧が、まばゆく反射しはじめる。じつに幻想的だった。なるほど、瀬戸内の風景そのものが美術館なのかもしれない。

「本当に、きれいですね」

優彩が呟くと、桐子は島々を眺めながら、深く肯いて答える。

「自然豊かで美しいですよ。でも直島にしても、瀬戸内海の島々って、じつは観光地化されていない裏側の地域では、※亜硫酸ガスを出す製錬所が建てられたり、産業廃棄物の不法投棄が行なわれたり、悲しい歴史があるんです」

③「あ……それ、私も聞きました」

優彩が遠慮がちに答えると、桐子は目を見開いた。

「そうなんですか？」

「はい、『※家プロジェクト』のひとつで、ボランティアで受付をしていた方と、少しお話をして」

島には、人と人のつながりを大切にする地域の原風景や、豊かな自然が残っているように感じられるが、じつはそういった負の遺産を背負わせられた過去があり、決して明るい部分だけではないのだ、とそのボランティアのおばあさんから教わった。

「そういう影の部分も含めて、今回の旅では、よりよく生きるって

なんだろうって、すぐく考えさせられました。便利さや豊かさばかり追い求めるんじゃないで、もつと地に足のついた社会って、どんなのだろうって」

桐子は何秒かこちらを真顔で見つめたあと、おにぎりをいったん紙袋に戻し、居住まいを正してから切りだす。

「^④あの、桜野さん。私と一緒に働きますか？」

おにぎりを口に運ぼうとした手が、落としそうになる。

「え、旅の仕事ってことですか」

「はい。桜野さんって、※ツアーアテンダントに向いていると思います。ボランティアの方とそんな深いことを語らったっていう今の話にせよ、往路のフェリーで出会った男の子とのやりとりにも、初対面の相手とすぐコミュニケーションがとれるって、ひとつの才能ですよ。なによりアートに興味があるのが伝わって、一緒に話しているところの視野も広がります」

一瞬、なにを言っているのかわからなかった。

「いやいやいや！ 私なんて！」

「^⑤急すぎる提案に、優彩はどう反応しているのかわからない。」

優彩の戸惑いを打ち消すように、桐子は真剣な面持ちでつづける。「うちの会社は、社員数も少ない小規模な会社ですが、アートの旅を企画するに当たって、手伝ってもらえる人を探していたところなんです。桜野さんさえよければ、私から社長に推薦してみます」

嬉しい反面、優彩は疑問を抱く。自分は旅行をした経験が^d乏しいうえに、地理やアートの知識に自信もない。好きでよく調べる程度だ。そのことを伝えると、桐子はそんなものは毎回事前に調べておけば十分だ、と答えた。

「でも——」

口癖のように自己否定的な言葉を並べかけるが、誰も得しないと気がつく。

できない理由なら、百個でも千個でも言える。

桐子はそんな心境を見透かしているようだった。

「大切なのは、桜野さんがやりたいかどうか、です。できるかどうかなんて、今はわからなくて当然ですから。さつき、強くなるって、モネの《睡蓮》の前で誓ったっておっしゃいましたよね？」

この人は、本気で言ってくれているんだ。

優彩はそう悟りながらも、どうしても自信が持てなかった。

「もう少し、考えさせてもらえますか？」

「わかりました」

すると桐子は、なにやら躊躇^{ためら}ったあと、頬を染めて訊^{たず}ねる。

「じつは、桜野さん……いえ、優彩さんと私は、ずいぶん前に面識があるんですが、憶^{おぼ}えてないですよね？」

またしても、驚きを隠せない。

「い、いつですか」

「優彩さんが小学生だった頃です」

混乱する優彩に、桐子は鞆かぼんのポケットからあるものを出し、手渡した。それはところどころ錆さびついた、古いリボンがかけられた小さな銀色の鍵だった。サイズからして、建物のドアの鍵というよりも、箱や戸棚といった小物の鍵だろう。

「最近、この鍵をたまたま実家から見つけて、優彩さんのことを思い出したんです。預かったままになっていたなって。それで、当時の住所だけはわかったので、今回の旅の招待状を送ることにしました」

優彩は驚きのあまり声が裏返りそうになる。

「つまり、あの封筒は理由があつて、うちに送られてきたんですか」
「そういうことです。引越していたら諦めるつもりでしたが、参加するというお返事をいただけで、本当に嬉しかったです。すみません、今まで黙っていて。怖がらせてしまわないかと心配で」

困ったように髪をさわる桐子は、今までの仕事上の態度と違って不安げだった。優彩は慌てて両手を胸の前でふる。

「いえ、謝らないでください、怖がるなんて、全然。むしろ私こそ、こうして直島に來られて救われたし、感謝しかありません。それに、なんとなく、^⑥そうじゃないかなって思った瞬間もあつたので」

驚きの展開ではあるが、素直に受け入れている自分もいた。なぜなら旅のなかで、何度か桐子に対して初対面とは思えない親しみを

抱く場面があつたからだ。あの勘は間違つておらず、根拠があつたのだ。

【二色いしきさゆり『ユリイカの宝箱』より】

※ 直島：香川県に属する瀬戸内海の島。美術館エリアがある。

※ モネの《睡蓮》：十九世紀フランスの画家・モネの描いた「睡蓮」の絵画の総称。直島の地中美術館に五点展示されている。

※ 亜硫酸ガス：二酸化硫黄。刺激臭のある有毒なガス。

※ 家プロジェクト：直島のアートプロジェクトの名前。

※ ツアーアテンダント：ツアーガイド。旅行者と行動を共にして、スケジュールの管理などを行う。

問一 —— 線部 a ~ d について、漢字はその読み方を平仮名で書き、カタカナは漢字に直しなさい。(漢字は楷書で正しく書くこと)

問二 —— 線部の熟語と同じ組み立ての熟語を、次のア ~ オから一つ選び、その記号を書きなさい。

ア 移動 イ 緩慢 ウ 瞬間
エ 投球 オ 円高

問三 — 線部①について、優彩は桐子に対しての「まぶしい」という印象の理由を、どのように考えていますか。それを説明した次の文の ・ に当てはまることばを十一字で本文中から探し、それぞれ初めの五字を抜き出して書きなさい。

桐子を支えている から発せられる光は、このところの優彩にとって であるため、桐子にまぶしい印象を抱いたのだと考えている。

問四 — 線部②のときの優彩の気持ちの説明として最も適切なものを、次のア～オから一つ選び、その記号を書きなさい。

ア 桐子が自分を尊敬してくれていることに感動し、もつと強くなるために努力しようとする心が引き締まる思いである。

イ 不安な気持ちを打ち明けた自分に、桐子が同情して弱い存在として受け止めてくれたことが嬉しく、安心している。

ウ 自分を元気づけようとする桐子のお世辞のような言葉を、軽い励まし程度だと思いつつも、好意的に受け流している。

エ 過剰に自分を評価している桐子の言葉に気おくれしながらも、意欲がわいて落ち着いた気持ちになっている。

オ 今の自分の姿勢や力をそのまま認めてくれる桐子の言葉に、張りつめていた気持ちが和らぎ、心が温かくなっている。

問五 — 線部③について、直島などの瀬戸内の島々の悲しい歴史を聞いたときの優彩の心情を説明した次の文の ・ に当てはまることばを、 は三十二字、 は四十四字で本文中から探し、それぞれ初めの五字を抜き出して書きなさい。

直島など瀬戸内の島々には、 ということがわかり、 と考えるようになった。

問六 — 線部④について、このように言ったときの桐子についての説明として最も適切なものを、次のア～オから一つ選び、その記号を書きなさい。

ア 知識が豊富なうえに社交的でどんな人とも心を通わせられる優彩に強く心をひかれ、仕事を通してもっと関係を深めたいと思ひ、緊張しながらその思いを伝えようとしている。

イ 優彩の話す内容が桐子にとっては新鮮に感じられ、そのときの思いつきで優彩には旅の仕事の才能があると思ひこみ、深く考えずにその考えを口にしてている。

ウ 旅行中に優彩の見識の深さや人がらに感心していたが、他者と奥深くかかわる力を改めて実感したことで、旅の仕事に適性があると確信し、誠実な態度でその考えを伝えている。

エ 優彩が思ひ悩んでいることを知り、弱さを支えるのが自分の役目だと強く意識したため、旅の仕事に誘えば気が楽になるだろうと軽い気持ちで提案している。

オ 優彩の孤独や苦しみに同情し、励ましたい一心で衝動的に誘ったいっぽうで、旅の仕事に関わることで彼女が少しずつ元気を取り戻していくことも視野に入れてている。

問七 — 線部⑤について、学級で話し合いをしました。次の話し合いの様子の、 に当てはまることばを、それぞれ本文中から抜き出して書きなさい。

花田 はなだ 一緒に働こうという桐子の急な提案に優彩が戸惑っている場面だね。この後の優彩の心情が複雑だと感じたよ。

今村 いまむら そうだね。現状を変えたい優彩にとっては嬉しい話だけど、旅行代理店で働くには自分は力不足だと感じている。でも、桐子にアドバイスを受けたあと、 を言いかけてやめているよね。そんなことを言ってもいいことはない、と気持ちが変わっているように思う。

中野 なかの 私は、その微妙な変化に桐子が気づいて、能力の有無よりも意欲が大切だと励ましたところがよいと思ったな。優彩は、桐子の提案や励ましは ものだと感じて心を動かされているよ。

花田 その後の部分が特に複雑に感じたんだ。優彩は、桐子の励ましに前向きになりながらも、 ことで、まだ決断ができないでいることがわかるよ。

今村 優彩の気持ち揺れ動いていて、現状を変えたいと思ひながらもなかなか踏み出せないことが感じられるね。

問八 — 線部⑥について、優彩がここで言いたいことについて説

明した次の文の a b c に当てはまることばを、

a は十五字、 b は十二字、 c は十字で本文

中から探し、それぞれ初めの五字を抜き出して書きなさい。

旅の中で、桐子に対して a ことがあったので、桐子から伝えられた b という事実を、驚きながらも c と

いうこと。

問九 優彩と桐子の関係を説明したものとして適切なものを、次の

ア c から二つ選び、その記号を書きなさい。

ア 桐子は旅の前に何となく優彩を招待する気持ちになり、深く考えずに行動したことを後悔しているが、優彩は桐子の意図を不思議に思いながらもありがたく感じている。

イ 桐子は尊敬を感じる優彩から信頼されたことを光榮に思っているが、優彩は桐子に心を許すようになってつい本音を打ち明けたことを後悔している。

ウ 桐子は旅の前から優彩に会いたくて行動を起こし、そのことを知った優彩に警戒されることを恐れているが、優彩はその桐子の行動に驚きつつも喜びを感じている。

エ 桐子は優彩に苦しい現状を聞かされて気まずく感じながらも、その正直な態度を好ましく思っており、優彩は桐子のよきな人間になりたいと憧れている。

オ 桐子は旅の前から優彩にツアーガイドになってもらいたいという目的を持っており、優彩は桐子との過去のつながりを知って驚きと喜びが複雑にからみ合っている。

カ 桐子はツアーガイドとして、優彩が快適に過ごせるように工夫を凝らし、優彩はそんな桐子に感謝しつつ、下の名で呼ぶなど自然に親しみを示すようになっていく。

問十 この文章について説明したものと最も適切なものを、次のア～オから一つ選び、その記号を書きなさい。

ア 優彩と桐子の軽妙で楽しい会話文を中心に物語が展開し、そのやりとりの面白さを強調することで、にぎやかな雰囲気の間場面になっている。

イ 場面の出来事や風景を淡々と説明的に描く中で、優彩と桐子のやりとりに勢いや軽快さを持たせて、読者の印象に残るように表現している。

ウ 優彩の心情を丁寧に深く掘り下げて描写し、情景や優彩と桐子の様子を比喩を多用して表現することで、場面が情感豊かなものになっている。

エ 直接的な心情表現を極力なくし、情景や表情、会話文を通して間接的に優彩の心情を描写することで、場面に奥深い趣を与えている。

オ 会話文によって物語が次々に動いていく中で、優彩の視点からその内面や具体的な情景が描かれており、読者に深い印象を与える場面になっている。

三

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(指定された字数には、句読点その他の符号も一字として含みます)

※伊豆山に学生ありけり。弟子も下人も他行の時、塩売り一

人來りて「塩や召し候ふ」といふ。房主、まことに塩をば、熊野

の道にも百味と云ひて、万の物の気味は塩にこそあれとて、

「買はん」と云ふ。一俵が代りを問ふに、「ただ御計ひ候ひてこ

そ召し候はめ」と云ふ。「上品の絹一疋に売りてむや」といへ

ば、「子細に及び候はず」とて代へて去りぬ。

弟子・下人など返りて、「商ひこそしたれ。しかしか」といへば、

「かばかりの事候はず。塩売りに誑惑せられ給へり。上品の絹一疋

にては、塩の俵は十四五も代ふべく候ふ」といふに、「さては、やす

からぬ事なり」と云ひて、頭をかく程に、次の日、「樽や召す」と

云ひて、馬に付けて來りけり。「おろせ」とて、やがて押し留む。

「こはいかに」と云へば、「昨日己れに誑惑せられたれば」と云ふ。

「さる事こそ候はね」と云ふ。弟子の僧、「かかる僻事こそ候は

ね。昨日のは塩売り、これは樽売りにて候ふに」といへば、「御

分、本より非学生にて、子細を知らぬさかしらする物かな。塩売

りは塩売り、樽売りは樽売りと云ふは、別教の心なり。円教の意

は、樽売りは即ち塩売り、塩売りは即ち樽売りなり」とて、叱りけ

れば、弟子、閑所より値をとらせてぞ歸しける。

【『沙石集』より】

※伊豆山：伊豆国の走湯山権現社。

※学生：学問修行をする僧。

※下人：召し使い。

※他行：外出すること。

- ※ 熊野の道…熊野参詣さんけい（熊野三社への参詣）をする道。
- ※ 百味…さまざまなごちそう。
- ※ 気味…においや味。
- ※ 上品の絹一疋…上等な絹一疋。一疋は二反と考えられる。
- ※ しかしか…これこれ、こういうことがあった。
- ※ 誑惑…たぶらかし、惑わせること。
- ※ 樽…薪たきぎ。
- ※ 僻事…無茶なこと。
- ※ 御分…そなた。
- ※ 円教…大乘仏教の教えのひとつで、「色即是空しきそくぜくう 空即是色」として「色は即ち空、空は即ち色」を説く。色も空も異ならず、あらゆる現象を区別しないということ。
- ※ 閑所…人のいない所。

問一 ——線部①・③を現代仮名遣いに改めて、すべて平仮名で書きなさい。

問二 ——線部②の意味として最も適切なものを、次のア～オから一つ選び、その記号を書きなさい。

- ア ちようどあなたが支払うことができる値段をお渡しください。
- イ。い。
- イ ただちに計算して決めるのでその値段でお買い求めください。
- ウ ちよつと気を利かせて元値より安い値段でお売りしましょう。
- エ ただあなたがふさわしいとお考えになる値段でお買い求めください。
- オ 本当にすぐれた品だと思うので高額をいただけるならお売りします。

問三 — 線部④とありますが、この発言の説明として最も適切な

ものを、次のア～オから一つ選び、その記号を書きなさい。

ア 樽売りが、房主に向かって「そのようなことはしておりません」と言っている。

イ 房主が、樽売りに向かって「そのようなことはしてはいけません」と言っている。

ウ 房主が、樽売りに向かって「そのようなこともあるでしょう」と言っている。

エ 樽売りが、房主と弟子の僧に向かって「そのようなことがあったのですか」と言っている。

オ 房主が、樽売りと弟子の僧に向かって「そのようなしなさい」と言っている。

問四 — 線部⑤とありますが、これはどういうことですか。その

説明として最も適切なものを、次のア～オから一つ選び、その記号を書きなさい。

ア 弟子の僧は、円教の教えを学ばなくても理解できているから、道理を把握していなくても師である房主をしっかりと諭すことができるのだということ。

イ 弟子の僧は、師である房主が学僧ではないことを見下しているから、師の考えを考慮せずにその行動に対し、えらそうなことを言うのだということ。

ウ 弟子の僧は、もともと師である房主の教えを聞こうとしなから、師の気持ちをよく知らずにその行動に対し、余計な口出しをするのだということ。

エ 弟子の僧は、師である房主が円教を学んでいないと軽視しているから、よく考えもせずに自分自身の考えの方が賢明だと平気で言うのだということ。

オ 弟子の僧は、円教の教えを身につけていないから、理由がわからないのに師の行動に対して差し出がましいことを言うのだということ。

問五 本文中には「**レ**」（かぎかっこ）がついていない箇所が一箇所あります。「**レ**」（かぎかっこ）に入れる部分の初めと終わりの五字を、抜き出して書きなさい。ただし、「※」の記号は解答に含めません。

問六 本文の内容を要約した次の文の**ア**、**イ**、**ウ**に当てはまることばを、**ア**と**イ**は六字でそれぞれ本文中から抜き出して書きなさい。**ウ**は二十一字で本文中から探し、初めの五字を抜き出して書きなさい。

房主は、塩売りから塩を高値で購入したことを「**ア**」だと思ひ、その報復として、翌日樽売りが訪れたときに「**イ**」と主張し、樽を強引に置いていかせようとした。結局、弟子が、樽売りにこっそりと**ウ**、帰らせた。

問七 本文中から読みとれる内容として適切なものを、次の**ア**から二つ選び、その記号を書きなさい。

ア 塩一俵と絹一疋を取り替えたと弟子や下人に話した房主は、塩売りにだまされたのだと聞かされた。

イ 房主は、塩はあらゆる身体の不調にも効果があると思ひ、ぜひ買いたいと思つた。

ウ 上品の絹一疋が何俵の塩に相当するか質問された塩売りは、具体的な数量を答えた。

エ 房主は、樽売りに対して自分は昨日の出来事が原因で体調を崩し、苦しんでいると話した。

オ 弟子や下人は、房主が高級な塩を十四、五俵も購入していることに驚きあきれた。

カ 弟子の僧も下人も外出しているときに、塩売りが房主のもとを訪れ、「塩はいりませんか」と声をかけた。

問八 「沙石集」は鎌倉時代に成立した作品ですが、同じ時代に成立した作品を、次の**ア**から一つ選び、その記号を書きなさい。

ア おらが春 **イ** 風姿花伝 **ウ** 万葉集

エ 古今和歌集 **オ** 新古今和歌集

